

【長門市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

「地域協育ネット」等が主体となり、学校・保護者・地域・関係機関が連携し、防災について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した準備、救急救命訓練等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。



実施内容

- 1 実施日時：令和4年8月27日（土）
- 2 実施場所：長門市立日置中学校
- 3 参加者：日置小学校児童18名 神田小学校児童3名 日置中学校生徒19名
保護者4名 学校教職員11名 地域住民13名 市関係職員10名
市教育委員会2名 県教育委員会1名

4 プログラム

8月27日（土）

8:30	9:00	9:10	10:10	11:10	12:10	12:20
受付	開会行事	【研修Ⅰ】実習 防災ゲーム 「クロスロード」	全体を2つに分け、前後半で 研修ⅡとⅢを実施 【研修Ⅱ】実習 起震車による地震体験 【研修Ⅲ】実習 簡易担架搬送等体験	【研修Ⅳ】講話及び実習 「避難所生活について」	閉会行事	解散

5 活動の様子

《研修Ⅰ 実習 防災ゲーム「クロスロード」 講師：長門市役所防災危機管理課 防災担当》

長門市防災危機管理課の方に講師になっていただき、防災ゲーム「クロスロード」を通して避難行動や避難生活の場面で必要となることについて、グループで考えました。究極の選択が迫られる場面において、何を考え、どんな判断をしたのかについて話し合う中で、考えること、伝えること、共有することの大切さについて学びました。



〔「クロスロード」の説明〕



〔グループでの話し合い〕



〔グループの意見として発表〕

《研修Ⅱ 実習 起震車による地震体験 講師：長門市消防本部西消防署員》

起震車により、小さい揺れの地震から関東大震災級のものまでを体験しました。大きな揺れでは体を支えることすら難しくなることや、様々なものが落ちてきたり、倒れてきたりすることが分かり、地震の際には、テーブルの下などにもぐり、脚等を持っておくことの必要性について実感することができました。また、火事にならないようにガス栓をすぐに閉めること、日頃からの備えとして家具等を固定しておくことも学べた時間となりました。



〔起震車による地震体験〕



〔地震発生時の身の守り方〕



〔地震への備えを学ぶ〕

《研修Ⅲ 実習 簡易担架搬送等体験 講師：長門市消防本部西消防署員》

消防署の方から、けがや病気の人を運ぶ方法について学びました。避難場面を想定し、避難所にありそうなものを上手に活用することにより、運びやすさが大きく変わることを経験しました。ものを使わずに運ぶ方法も教えていただき、どんな場面でもできることやできる方法があることを学びました。



〔毛布にくるんで運ぶ〕



〔毛布と棒で担架を作り運ぶ〕



〔道具を使わず運ぶ〕

《研修Ⅳ 講話及び実習 「避難所生活について」 講師：県学校防災アドバイザー》

学校防災アドバイザーから、実際の避難所生活の様子について話を聞いたり、段ボールベッドづくりを体験したりする活動を通して、一人ひとりが知恵を出し合い、互いに助け合うことの大切さを学びました。協力して作った段ボールベッドの強度や寝心地を代わる代わる確かめながら言葉を交わすことで、参加者間の距離が縮まり、一体感が生まれました。



〔段ボールベッドづくり〕



〔強度や寝心地の確認〕



〔避難所生活についての話〕

【児童・生徒の感想から】

小学生

- ・ペットを避難するときに連れていくかで、班の大人の方は連れて行かないと言っていた人が多かったけれど私は、ペットは大切な家族だからイエスにしました。けれど今後家でも考えてみます。
- ・研修 I のイエスカノーかというのが難しかったです。迷うことがあったのでこれから地震や津波などで避難するときは悩まずにしないといけないと思いました。
- ・災害には絶対備えようと思いました。そしてどうすればよいか分かりました。
- ・けがをしている人の救助の仕方を知り、一人のやり方とみんなで助け合う仕方で人を助けたいです。
- ・地震の体験で実際にどんなふうに揺れるかなどが分かりました。搬送のやり方ですぐに担架が作れるのはとてもびっくりしました。でもとても便利だと思いました。
- ・地震の揺れを体験するとき震度 7 がとても揺れていてびっくりしました。地震が起きた時立てるか心配です。大きいものが倒れてきたり、落ちてきたりすると思うと怖いです。いつくるか分からないので日ごろから準備しておこうと思いました。
- ・起震車の震度 7 の揺れが大きくて、あれが家にいるときに起きたら怖いなと思いました。
- ・地震を初めて体験して、思っていたより揺れが激しくて驚きました。立っていると転びそうだったので、隠れることは大事なんだと分かりました。
- ・地震体験で初めて揺れを経験して、身を守る行動が大切だと分かりました。
- ・避難することの大切さや人を運ぶときとかの体験をしてみて、分からなかったことが分かってよかったです。
- ・災害で避難をしたことがないので正直分からないことのほうが多いですが、今日言われたとおりに自分にできることを見つけて役割をもって行動したいです。

中学生

- ・地震にあったことがないので、今日体験してとてもびっくりしました。一番大きい揺れを体験して、机があんなに動くとは思いませんでした。今日教えてもらったことを、もしもの時にいかしたいです。
- ・いろいろな災害に対応できる対策の仕方がわかりました。地震などもどれくらいゆれるかを知りました。
- ・いつ災害にあうかわからないけど、いざというときに自分から進んで地域の人と協力しようと思いました。自分から動けるようにしたいです。
- ・段ボールがたくさんあったらいろいろなものを作れるとわかりました。
- ・避難所では通路を確保することが大切だとわかりました。
- ・学校である避難訓練よりも幅広く体験することができました。特に起震車に乗ったことがとても良い体験になりました。日常生活で考えて行動したいです。
- ・これから絶対に地震など災害に遭うときがくると思います。なので、今日は参加して良かったです。YES,NO で考えるクロスロードが印象的でした。避難所では自分だけではないことを自覚し、まわりへの配慮を心がけたいと思いました。
- ・起震車による体験で地震の怖さを改めて知りました。今日学んだことを災害が起こった際に生かしていきたいです。
- ・災害の怖さや、避難所での生活の大変さを、より深く知ることができました。災害が起こる前から、災害が起きても準備できるようにしておきたいです。
- ・地震で震度 7 はすごく机が揺れていたの、物が動きやすいとわかりました。
- ・小さなことでもできることをやっていくといいなと思いました。
- ・簡易に作れる担架など、しっかり覚えることができたので、良かったです。起震車ではけっこういろいろなゆれを体験することができたので今後に生かしたいと思います。
- ・けがをしている人の運び方、避難することの大切さがよく分かりました。大災害を体験したことがないので、大災害が起こったらどのようになるかを想像できなかったけど、今日の体験でいざというときにどうしたらいいのか、身について良かったです。